

工業簿記 個別原価計算

パターン I 【仕訳問題】

A工場では、製品原価の計算に実際個別原価計算を採用している。次の【資料】にもとづいて、仕訳を示しなさい。

【資料】

1. 当月の主要材料消費量・直接作業時間

製造指図書番号	# 1 0 1	# 1 0 2	# 1 0 3
主要材料消費量	550kg	1,370 kg	1,500 kg
直接作業時間	600 時間	910 時間	870 時間

2. 年間製造間接費予算額

56,880,000 円

3. 年間予定直接作業時間

36,000 時間

- (1) 当月分の直接材料費を計上する。なお、直接材料費は予定消費単価を用いて計算しており、予定消費単価は 800 円/kg である。主要材料の消費額はすべて直接材料費である。

【計算】

1 0 1 :

1 0 2 :

1 0 3 :

直接材料費合計 :

(仕 訳)

--	--	--	--

(2) 当月分の賃金の消費額を計上する。なお、直接工賃金の消費額は予定消費賃率を用いて計算しており、予定消費賃率は 1,500 円/時間である。また、間接工賃金については、前月末払高 770,000 円、当月支払高 1,850,000 円、当月未払高 684,000 円であった。

【計算】

1 0 1 :

1 0 2 :

1 0 3 :

直接労務費合計 :

間接労務費合計 :

(仕 訳)

--	--	--	--

(3) 当月分の製造間接費を予定配賦する。なお、製造間接費の配賦基準は直接作業時間による。

【計算】

製造間接費予定配賦率 :

1 0 1 :

1 0 2 :

1 0 3 :

製造間接費合計 :

(仕 訳)

--	--	--	--